

抗議声明

老朽美浜原発3号の原子炉起動に強く抗議する

関西電力は本日(8月30日)、40年超えの老朽美浜原発3号の原子炉起動を強行した。福井県民、周辺住民、全国の人々の反対や不安の声を踏みにじるものであり、強く抗議する。

関電は、美浜3号の起動予定を2ヶ月早めて8月10日と発表した後、8月1日に一次冷却水7トン漏れの事故を引き起こした。続けて21日には緊急炉心冷却装置の一つである蓄圧注入タンクの圧力低下を起こし、運転再開の延期を余儀なくされていた。しかし原因が究明されたとして8月30日に原子炉を起動した。

冷却水漏れは、フィルタ容器蓋のネジの締め付けが弱かったためにゴム製リングが破れて起きたという。協力会社作業員が本来の5分の1以下という小さい誤った値を作業要領に書き込んでいたことが原因だとしているが、関電はそれを点検さえしていなかった。信じがたいほどのずさんな管理だ。また、2007年にも大飯1号で同様のゴム製リングが破断して冷却水漏れが起こっている。1本のゴム製リングで160気圧もの圧力に対抗して漏れを防ぐ構造に欠陥がある。管理態勢の抜本的見直しと、すべてのフィルタ容器の構造を見直すべきだ。

蓄圧タンクの圧力低下は、安全弁に長さ9mm、幅1mmの打痕を確認したことから、定検作業で資機材が安全弁に接触し、その衝撃で弁にずれが生じ作動圧力が低下したためだという。しかし、その資機材が何かは公表していない。安全弁が簡単に作動するようでは、地震時に様々な衝撃により安全弁が開いて、ホウ酸水注入のための蓄圧タンクは役にたたず、事故を収束することはできなくなる。

私たちは、美浜原発事故時の避難地域である長浜市北部を戸別訪問し、住民のみなさんに美浜原発の運転反対を訴えてきた。事故で琵琶湖も余呉川も汚染される、農業もできなくなる、避難できない等の反対や不安の声を聴いてきた。8月上旬の豪雨は、福井県、滋賀県北部でも河川の氾濫による深刻な被害をもたらした。原発事故が重なれば避難することもできない。その声に基づき滋賀県(7月29日)、長浜市(8月8日)、福井県(8月16日)に、美浜3号の運転再開に反対を表明するよう求めてきた。自治体は、住民の安全を守るために、関電を厳しく監視しなければならない。

政府は、原発の再稼働を急ぎ、新增設やリプレースまでも進めようとしている。福島原発事故の教訓を顧みない、新たな原発推進策動を阻止していこう。

美浜3号が事故を起こせば、福井県をはじめ関西、中部地方など広範囲に甚大な被害をもたらす。関西1,450万人の命の水源、琵琶湖が汚染される。

関電はただちに、美浜3号の原子炉起動を中止し、運転を停止せよ。

2022年8月30日

避難計画を案ずる関西連絡会

(連絡先団体：グリーン・アクション/ 原発なしで暮らしたい丹波の会/ 脱原発はりまアクション/
原発防災を考える兵庫の会/ 美浜の会/ 避難計画を考える滋賀の会)

この件の連絡先 美浜の会 大阪市北区西天満4-3-3 星光ビル3階 TEL: 06-6367-6580